

〔国際会議開催〕

申請者	大阪府立大学 教授 黄瀬 浩一	2175006
国際会議名称	14th IAPR International Conference on Document Analysis and Recognition	
開催期間	2017 年 11 月 9 日～15 日	
開催場所	京都テルサ (京都府京都市南区)	
申請者の役割	General Chair	

概要 :

文書解析と認識に関する国際会議 (ICDAR) は、文書を計算機で解析して知識の流通を促進する目的の会議であり、当該分野で最も権威があるとされる国際会議である。ICDAR は、1991 年以降、世界各地で 2 年に一度開催されている、当該分野の研究者が一堂に会する重要な情報交換の機会である。毎回、密度の高い議論が行われるほか、国際共同研究の種が会議中に見つかることも珍しくないなど、研究者間の交流の場として重要な意味を持つ。

1993 年の筑波開催以来 2 回目の日本開催となる今回の京都での開催は、過去最高レベルの 512 人 (国内 99 人、海外 413 人) が参加するイベントとして、成功を見た。前回も参加者から大変好評だったと聞いているが、今回もそれに勝るとも劣らないレベルの大好評を得、日本クオリティを存分に発揮できたと自負している。

会議は 7 日間にわたって行われ、最初の 4 日間はワークショップやチュートリアル、Doctoral Consortium などを含むプレカンファレンスで、最後の 3 日間は本会議で、3 件の基調講演と 212 件の発表 (そのうち 52 件が口頭発表、160 件がポスター発表)、パネルディスカッションなどが行われた。本会議の 3 日間は、毎日基調講演から始まった。初日は Prof. Rangachar Kasturi に図形認識研究のこれまでの歩みに関して、2 日目は Prof. Andreas Dengel にコミュニティ内の研究者の影響力や関係の分析結果に関して、3 日目は Prof. Xiang Bai に情景中の文字認識の動向に関して講演をしていただいた。口頭発表は 12 セッション、ポスター発表は 3 セッション行われた。会場が京都であり、ちょうど紅葉シーズンとあって、会議を抜け出して観光に行く参加者が少なくないのでは無いかと考えていたが、それは杞憂であり、会場は熱い議論を繰り広げる多数の参加者で埋め尽くされた。